

# 自然物利用の雛祭に就て

膳 眞 規 子

幼稚園で雛祭を催します事の年毎に盛んになつて参りました事は、幼児教育上誠に欣幸の至りです。御座います。

昔は幼稚園での雛祭は餘り致しませんでした。故に私の勤めて居りました幼稚園では之れに對する設備等は少しも御座いませんでした。

過る明治三十年の春頃幼児に幾分春の氣分に打たれさせたき考へより、保育室内塗板に櫻花の爛漫たる處を描きまして其下に、立雛を描きました處が、幼児達の喜びは非常な事です。御座いました。私も又描き甲斐の有りました事を何となく愉快で御座いました。

翌日幼稚園に出勤致しました處昨日描きました塗板の下にある机の上に、人形が三個と、道具が揃へて御座いました、誰が持つて参りましたかを尋ねて見ますと、松さんと申す男の子は博多人形の兵隊さん、笑子さんは小さなお人形さんを、女子さんは伏見焼のお重箱を持つて來た事が分りました。此三人の子供の申しますには、幼稚園にお雛様が出来たので、昨夜は嬉しくて嬉しくて堪りません。夜も度々目がさめて今朝早くから楽しんで幼稚園に來た事を、得意然と話し、又其他の子供達も同感者多く、此喜びは、女の子斗りではなく、男の子も同様に喜んで居ります。私は此話を幼児達

より承りました時は、何時も大人感斗りを持つて、幼児達の興味ある憧憬を無視して居た事が何んだか、幼児に對してすまぬ氣がいたしました。當日は終業後職員一同が一致協力して、俄細工に、自然物を利用して、お雛様を作り、又お菓子は其當時野菜類で作るお菓子の製法を習ひましたので、之れを幸ひと、夜分自宅で、さつま芋、牛房、にんじん、密柑の皮等を以て、雛菓子を多量に製造して翌日幼稚園に持參して、お雛様祭を催しました。當日は五段の壇を作り、自然物製の雛様や、自然物製の、お道具を揃へ、野菜製のお菓子を排べて、お雛祭を致しました。其野菜製の雛菓子を、幼児達に摺み紙で、籠を作らせ、其中に入れて與へまして一同打ちより愉快に、茶話會を致しました。此時の幼児達の喜びは、實に大したもので、とてもとても、言葉にも筆にも形容は出来ません。室内は喜びの聲でなりも止まぬ程で御座いまし

た。斯の狀況は、全く負ふた子に教へられました。諺の如く、幼児達の動機によりまして、斯く催しを爲すに至りしもので、實に氣持よき催して御座いました。

爾來之れを動機として長き年月の間、趣味豊富簡單にして自然物利用の巧みなる表現を幼児より學び、自然物利用の雛祭を催して居りました。

幼児の家庭には随分數百金を投じて立派なる雛の所有者も御座いますが、幼稚園にて作りたる物は、幼兒本位のもの多く、又材料は幼兒の常に嗜好せる自然物で、殊に努力して採集せるものを利用して御座います事として、それはそれは幼兒の腦裏には興味を以て歓迎せられて居ります。

又此催しを機會に、家庭の祖母様お母様お姉様方の來園有りまして、家庭の聯絡機會ともなり、此來觀者は皆此催しを珍らしく見て下さいます。又凡ての廢物利用により、幼兒教育の上に、効果

ある玩具に轉用されたる事を非常に感心して下さいます。

又平素より懇情を蒙り居る市内又は、近くの幼稚園の先生方も、此開催を機會に必ず、遊來を請ひ、雛壇の前にて、胸襟を打ち開き、愉快に談會を催して居りました。

三月三日も雛祭を開備してよりは、毎日毎日隨分遠方より觀覽に多數の方の來園有り、爲めに、平素疎遠の方方に御面會が出来まして、催し甲斐の有る事を、嬉しく感じて居りました。

又雛や其他の品を作りますのにも、年々致して居ります事として、造作なく出來るので御座います。毎日忙しい勤めの時間中の事として決して、之れに多數の時間を取らぬ様にして居りますが、毎年二月二十日より、二十八日迄、午後終業後點燈の頃迄從事する事にして居りました。女學校卒業早々保姆となられた、若き方々は、中々嶄新奇抜の作

品を造られます事は、何時も感服して居るので御座います。

次に雛并に道具造り方に付きまして、其概略を申し上げます。

雛の顔は凡て梅壇の實を利用致します。

雛の冠はゴム(ユウカリ樹)の實のヘタ、又はどん栗のヘタ利用。

衣服、四角形の摺み紙を三角形に折り使用す。

着せ付けは、十數種の折様により、變化出來得。

立雛の顔は、種々なる木の實其他を用ふ。

其種類を擧ぐれば、

珊瑚雛 元結雛 豆雛 木葉雛 貝殻雛 珠數

及珠雛 桐實雛 檜實雛 小石雛 猫柳雛 羽

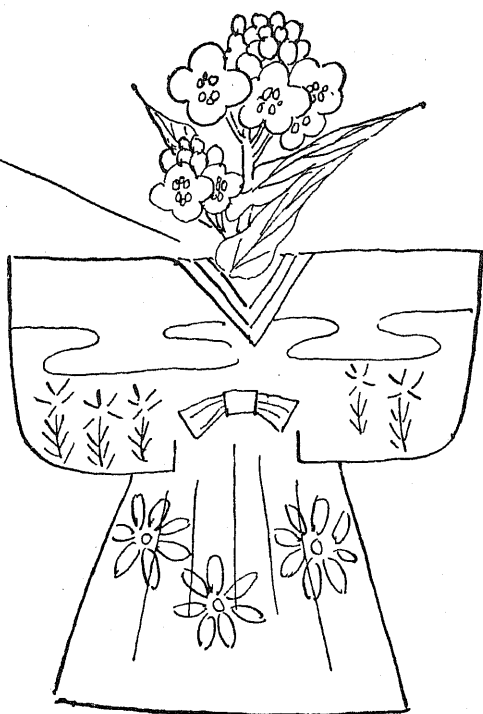
根雛 松の實雛 ドン栗雛 栗雛 金柑雛

又硝子瓶に水を入れ、生花をさして立雛とす。

此立雛の顔は、實物の花を使用す。

水仙花 椿花 梅花 菜の花 桃花 彼岸櫻

この中に硝子瓶を入れて  
生花を活ける



温室の花では、ゼラニウム チューリップ  
ヒヤシンス プリムラ マガレット 其他。

お道具としては(自然物)摺み紙を以て作る)

簞笥 長持 カバン トランク 自動車 鏡臺  
茶盈 蓄音器 琴 笛 火鉢 膳 茶碗 手拭  
掛 額 肩 團扇 三寶 蒲團 箒 塵取 洗  
面器 花瓶 軸 下駄 草履 櫛 簪 椅子  
長椅子 時計 毬 羽子板 羽根 太鼓 鼓  
机 ピヤノ 風琴 机 舟 花輪 燭臺 俎  
庖刀 籠種々 屏風 靴 衛生 ラジオ 寫真  
機。

右は大略にして、其巧みなる利用により、種々  
なる物品を作成す、其數枚擧に違あらざれば此處  
に擧筆す。

以上の材料は、自然的、及び摺み紙、針金、繪具  
(彩色用)を使用するのみにて、他は僅かの費用を  
要せず、幼児に興味深く歓迎せらるる事は、購求  
せる品より數等の價値あるものなり。